

花の日は

おまつたのは その人 三十八才の時

歯科医師の彼は 毎週は曜日 工イゼン

コイナイ 赤くましと 三人で 来たくれん

室のことは ありありおぼえて いるのか

その折 いろんち けしと 花がさいた

外田の女は 友の人は 靴はうつ 大いなが

けしを して けい 4サーミンが 白人に

それと 実た女 らしい

このオロロ の 字真

よて 見は 大まかり 木のうらた

そのクボと フかあうう

とにかう ふてくうう

あ、ニうさ 色が 変つて けい

さむさ 石ん 平気 オー けい けい けい

本 さむい けい けい けい けい

と 次は 岩塚 は けい

と にかく けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい

コイ けい けい けい けい けい けい けい

たのしみ

ハ先づはよく手紙をもろつた

手紙に茶膳料にとりくみ料理は自分で

コおへん当もつくつていた

その上シエスリもはじめた

やがてアタビの高級スニヨンも手に入

同棲の彼女を十七年ぶりに入籍したと

報告 リゾルトにニヨンでうう年の

店をけいめた

アタビ手紙もろつた

二度知うとといつてどうしていつか

そにでゴッリ 途絶えて三年たつ

エ下紙後半は正かもしれぬ

ハフでも一重賢明に

此の字の白を送つていた

2025
6/3